平成 26 年度安吾賞市民交流事業

第九回

安吾賞

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第9回の安吾賞受賞者として、前衛芸術家・小説家『草間彌生』氏を選出した。

受賞記念展示

NEXT21/1F/アトリウム

新潟市中央区西堀通 6 番町

2015
2/17 tue.
～24 tue.
8:00~23:00

2/17（火）午後 7 時より
授賞式報告会開催
●coba 氏来場
〈入場無料・申込不要〉

Ango と
Yayoi と
coba と

Ango
ANGO Awards

問い合わせ先：
【安吾賞市民交流事業実行委員会】
新潟市文化政策課内
TEL.025-226-2563

KUSAMA
Yayoi
安吾賞
前衛芸術家・小説家
草間彌生

草間彌生　(C) YAYOI KUSAMA

第九回 安吾賞

前人未踏の、ふたり。

草間彌生 (C) YAYOI KUSAMA

安吾賞

草間彌生　前衛芸術家・小説家

【くさま・やよい 略歴】 前衛芸術家、小説家。長野県生まれ。
幼少より水玉と網目を用いた幻想的な絵画を制作。1957年単身渡米、独創的な作品と活動はアート界に衝撃を与え前衛芸術家としての地位を築く。1973年帰国後も全世界を飛び回り活躍中。小説、詩集なども多数発表。

1983年、小説「クリストファー男娼窟」で第10回野性時代新人文学賞受賞。1993年第45回ベニス・ビエンナーレに参加。2000年、第50回芸術選奨文部大臣賞、外務大臣表彰。2001年、朝日賞。2003年フランス芸術文化勲章オフィシェ、長野県知事表彰（学術芸術文化功労）。2004年、信毎賞。2006年、ライフタイム・アチーブメント賞（U.S.A.）、旭日小綬章、高松宮殿下記念世界文化賞。2009年、文化功労者顕彰。2012年アメリカン・アカデミー・オブ・アーツ＆レターズ会員。2012年には欧米の主要美術館を巡回する回顧展が開催された。2012年～2013年 スペイン・レイナ ソフィア美術館、フランス・ポンピドゥーセンター、イギリス・テートモダン、アメリカ・ホイットニー美術館で欧米巡回回顧展が開かれる。2013年より初のラテンアメリカでの回顧展巡回、アジア巡回個展が始まり、現在も各地を巡回中。

新潟市特別賞

coba　アコーディオニスト・作曲家

【こば 略歴】 アコーディオニスト・作曲家。3才～14才まで新潟市で育つ。
3歳から音感教育で音楽に接し、18歳でイタリアに留学。ヴェネツィアのルチアーノ・ファンチェルリ音楽院アコーディオン科を首席卒業。

1979年、アラッシオ国際アコーディオンコンクール第1位受賞。1980年、第30回C.M.A世界アコーディオンコンクール第1位受賞(東洋人初)。1989年、ヨーロッパツアー開始。1992年、ファーストアルバム「シチリアの月の下で」で日本レコード大賞特別賞受賞。1995 ～ 1997年、ビョークのワールドツアーに参加。1996年、フランスのFMステーション【RADIO NOVA】でアルバム「ROOTS?」が年間ベストアルバムに選出。1997年、イタリア、ヴェネト州ミラーノ市名誉市民賞受賞。1999年、音楽、芝居、ダンス、ライブ映像をミックスした実験イベント「テクノ キャバレー」をプロデュース。2001年、第24回日本アカデミー賞音楽賞優秀賞を受賞(映画「顔」阪本順治監督)。2006年、前代未聞のコラボレーションイベント「I & GLOBE = vs」をプロデュース。イタリアにて、世界で最も活躍するリード・アーティストに贈られる「voce d'oro ～金のリード賞～」を受賞。2009年、世界3大アコーディオニスト～夢の競演～東京にて世界初演。世界3大アコーディオニスト～夢の競演～イタリア公演。2011年、デビュー 20周年を迎える。2014年、TFC55（東儀秀樹 × 古澤巌 ×coba）にてミニアルバムをリリース、全国ツアーを開催。沖縄県より「美ら島沖縄大使」に任命される。12月17日、自身初のカバーアルバム「cobacabada」をリリース。
2015年1月～ 6月「coba tour 2015 cobacabada」を開催。世界60カ国以上にわたるcobaの演奏、作曲活動は今日も世界各地に熱烈なフォロアを生み続ける。

坂口安吾年譜

生誕　明治39年（1906）10月20日、新潟市に生まれる。学校に馴染めず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで思索した。荒漠たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となっていつの日か歴史の中によみがえるであろう　大正11年、落第が決定的となり東京の豊山中学3年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となっていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫ったという。卒業後、下北沢の分教場の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者、安吾　大正15年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読破、睡眠4時間という厳しい修行生活を1年半続け神経衰弱に陥ったが、それを梵語、パーリ語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー　昭和6年、『木枯の酒倉から』、『ふるさとに寄する讃歌』、『風博士』を発表、文壇デビューを果たす。失恋の痛手を克服する決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返し自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』(S15)、『木々の精、谷の精』(S15) などの新境地をひらく。

小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美　昭和17年、国粋主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を鵜呑みにすることの欺瞞を指摘した。

堕ち切ることにより真実の救いを発見せよ
昭和21年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、4月『堕落論』、6月に『白痴』を発表。この2編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨て新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『堕落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和22年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の褌を洗う女』を発表。

戦う安吾　昭和25年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和26年国税局と税金滞納、差押えをめぐって『負ケラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年9月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』(S27) 発表。

急逝　昭和30年（1955）2月17日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年48。

受賞記念展示

2015 2/17（火）～24（火）　8:00～23:00 ＜入場無料＞

NEXT21/1F/アトリウム
（新潟市中央区西堀通3番町）

問い合わせ先：【安吾賞市民交流事業実行委員会】
新潟市文化政策課内　TEL.025-226-2563
【新潟市役所コールセンター】TEL.025-243-4894

新潟市 安吾賞

Ango ANGO Awards